

コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会について

平成26年11月28日
経済産業省物流企画室

1. 趣旨

- 現在、輸出入における海上コンテナの陸上輸送では、空コンテナの輸送が生じており、非効率な状況が発生。また港湾地区にて恒常的に渋滞が発生しており物流の非効率が生じている。海上コンテナを融通しあう仕組(ラウンドユース)を構築することで、物流効率化や省エネに資する取組を促進することが重要。
- 荷主、物流事業者、船社等が一同に会し、コンテナラウンドユースの取組の現状、課題等を整理、さらには課題解決の方策等について、また、コンテナラウンドユースの取組を普及・啓発するための方策、情報発信の方策の検討を通じて、コンテナラウンドユースの取組を促進する。

2. 準備委員会の役割

- 荷主、物流事業者、船社等が一同に会し、コンテナラウンドユースの取組の現状、課題等を整理、さらには課題解決の方策等について議論を行う。
- コンテナラウンドユースの取組を普及・啓発するための方策、情報発信の方策の検討。
- 官民連携した今後の更なる取組(推進協議会の設立)に向けた課題、方策の整理。

3. 準備委員会の運営

- 本準備委員会は平成26年度次世代物流システム構築事業の一環として開催されるもの。
- 事務局は日本ロジスティクスシステム協会(JILS)が担う。なおJILSは適宜、経済産業省(物流企画室)及び三菱総合研究所(MRI)と連携しながらその運営を進めていく。

4. スケジュール予定

- 平成26年11月28日:第1回委員会を開催。以降平成27年2月下旬までに3回程度開催予定。

(参考)

総合物流施策大綱におけるコンテナラウンドユースの 位置づけ

1. 総合物流施策大綱（2013-2017）（平成 25 年 6 月閣議決定）

- (1) 産業活動と国民生活を支える効率的な物流の実現に向けた取組
【 我が国の立地競争力強化に向けた物流インフラ等の整備、有効活用等 】

グローバル・サプライチェーンの一端を担う我が国物流ネットワークの国際競争力を強化するため、物流インフラの整備や運営効率化を図るとともに、国際物流に不可欠な物流インフラ・物流システムの整備・充実を推進する。

- 1) (略) **インランドデポでのコンテナラウンドユース等を活用した広域からの貨物集約（中略）の促進を図る。** (略)

2. 総合物流施策推進プログラム（平成 25 年 9 月総合物流施策推進会議決定）

1. 産業活動と国民生活を支える効率的な物流の実現に向けた取組

- (2) 我が国の立地競争力強化に向けた物流インフラ等の整備、有効活用等

- 1) 港を核とした国際物流網の強化

- イ) **インランドデポ等によるコンテナラウンドユースの促進**

インランドデポ等の活用により、内陸地におけるコンテナラウンドユースの環境整備を行う。

コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会での検討の視点(案)

- 複数荷主間で実施する際の課題解決について
- コンテナラウンドユースを進めていく上でのインランドデポの役割について
- 新しい形態のコンテナラウンドユースを進める上での課題解決について
- コンテナラウンドユースの取組を推進していくための支援策及び普及啓発の検討